

服飾講座のご案内

濱田雅子

ゲストスピーカーの濱田雅子です。

濱田雅子の服飾講座『服飾から見た生活文化』シリーズもお陰様で20回目を迎えました。ここまで来れましたのも、ひとえに、これまでサポートして下さった児嶋きよみ様はじめ、参加者の皆様のお陰と、感謝申し上げます。

さて、濱田雅子の新刊書『20 世紀アメリカの女性デザイナーの知られざる真実—アメリカ服飾社会史続編—』（インプレス R&D、2021）は、『アメリカ服飾社会史』シリーズの第4編です。『パリ・モードからアメリカン・ルックへ—アメリカ服飾社会史近現代篇—』の第二部で論じたアメリカン・ルックの誕生の問題をさらに掘り下げ、アメリカン・ルックの開発に貢献した知られざる女性デザイナーに光を当てた著作です。

本書のテーマは、端的に言えば、20 世紀アメリカの女性ファッション・デザイナーの認知度です。本日のテーマにあるティナ・リーサさんを、皆様はご存じでしょうか。おそらくご存じない方が大半でいらっしゃるのではないのでしょうか。

本講座の第1回の案内で、児嶋きよみさんは、以下のように書かれています。

以前の皆さんへのアンケートで、「知らないことを知る楽しみ」をこのグローバルセッションで挙げた方が、とても多かったのですが、今回は英語のセッションではありませんが、驚くことばかりです。

是非、京都の蹴上げにおいでください。**知の楽しみ**が増えることは、保証します。

ティナ・リーサさんについて「**知る楽しみ**」を味わっていただければ幸いです。著作権の関係で、私の著作に掲載できなかったティナ・リーサさんの衣裳作品の数々（約100点）をスライドでご紹介させていただきます。世の中はコロナ禍のなかで、アパレル産業にも陰りが見えています。このような状況において、**持続可能なファッションとは、どのようなファッションでしょうか。**リーサさんの作品の中からぜひ、持続可能なファッションを見つけませんか。

参加希望者の方には、後日、ティナ・リーサさんの歩みを記した年表をお送りさせていただきます。

概要

★ティナ・リーサは、1950年代に芸術家として育ったアメリカのファッション・デザイナーです。世界中を旅行しており、フェアトレード、持続可能性、デザインと生産におけるグローバルな展望を優先しました。

★ティナ・リーサは、アメリカでも知られていないということです。

★本講演では、ティナ・リーサの生い立ち、ファッション・デザイナーとしてのハワイ、ニューヨーク、インド他を舞台とした活躍ぶりをアメリカの服飾研究者の近年の研究に基づいて、紹介させていただき、こんな凄い活躍をしたファッション・デザイナーが、なぜ、知られていないのだろうか？ その真実に迫ります。

★第41回研究会で話題になったフェアトレードと持続可能性の問題をティナ・リーサの活躍ぶりと作品の数々を通して考察し、皆さんとともに考えてみる機会になればと思います。

全体構成

1. 濱田雅子著『20世紀アメリカの女性デザイナーの知られざる真実-アメリカ服飾社会史 続編一』の内容紹介
2. ティナ・リーサの生い立ち
3. ハワイ・ニューヨーク、インド他での活躍
4. 世界旅行で培ったグローバル・ビジョン
5. ティナ・リーサのファッション哲学-ウィリアム・モリスの影響
6. ティナ・リーサの作品に見るフェアトレードと持続可能性
7. Tina Leser' s Sustainable Fashion 映像・解説 (3~6でも作品紹介)
8. まとめ

参考文献

濱田雅子著『『20世紀アメリカの女性デザイナーの知られざる真実-アメリカ服飾社会史 続編』 (POD出版)

電子書籍 アマゾン kindle版

ペーパーバック (Next Publishing Authors Press, 2021年4月7日発行)





Figure 102. The embroidery on this skirt was done by the Nadachada tribe in Assam, India. Source: www.kittysgirlvintage.com/Outerwear/SuitsPage5.htm (accessed September 10, 2009).

インドのアッサム地方のナダチャダ族による刺繍が施されたスカート



Figure 123. Leser's grey cotton playsuit with plum and turquoise satin stripes would be as welcome in a closet of 2009 as it was in 1945. Source: *Women's Reporter*, May 1945, Tina Leser Archive, Box A1, Special Collections, Gladys Marcus Library, Fashion Institute of Technology, New York.

1945年。プラムとターコイズブルーのサテンストライプのグレーのコットンプレイスーツ

『濱田雅子の服飾講座の歩み』

- | | | |
|------|-------------|---|
| 第1回 | 2013年10月13日 | ポルトガルの民族衣裳の地域別特性 |
| 第2回 | 2014年2月23日 | アメリカ植民地時代の服飾 |
| 第3回 | 2014年6月14日 | 南蛮服飾を通して見た東西文化の交流 |
| 第4回 | 2014年10月11日 | 服飾を通して見たアメリカ人意識の形成
—アメリカ独立革命期を舞台として— |
| 第5回 | 2015年2月28日 | アメリカ史にみる職業着—植民地時代～独立革命期— |
| 第6回 | 2015年6月13日 | 小説『ルーツ』のなかのクンタ・キンテの服装をめぐって |
| 第7回 | 2015年10月17日 | フランス・ファッションのアメリカへの伝播 |
| 第8回 | 2016年2月7日 | フランス・ファッションのアメリカへの伝播 |
| 第9回 | 2016年6月25日 | 19世紀アメリカ、ローウェル工場的女子労働者の日々 |
| 第10回 | 2016年11月20日 | 19世紀後半北アメリカ西部開拓時代の衣生活 |

- ーミネソタの大草原の小さな家を訪ねてー
- 第11回 2017年3月18日 19世紀後半、アメリカの開拓地カンザスへの移民の生活文化とファッション観
- 第12回 2017年8月20日 先住アメリカ人の歴史と衣文化ープエブロ族とナバホ族の居留地におけるフィールドワークからのレポートー
- 第13回 2018年1月21日 先住アメリカ人の衣文化と教育問題
- 第14回 2018年6月23日 ユートピア思想とパンツをはいた女性たち（第Ⅰ期）
ー19世紀アメリカの女性のリフォームドレスについてー
- 第15回 2019年2月3日 ユートピア思想とパンツをはいた女性たち（第Ⅱ期）
ー19世紀アメリカの女性のリフォームドレスについてー
- 第16回 2019年7月6日 パリ・モードからアメリカン・ルックへの転換
ーその牽引者ドロシー・シェーバーに迫るー
- 第17回 2019年11月30日 現代アメリカの衣服産業について（その1）
ーオートクチュール、カスタムメイド、既製服をめぐってー
- 第18回 2020年8月22日 現代アメリカの衣服産業について（その2）
ー衣服産業が環境に及ぼす影響ー
- 第19回 2021年2月13日 コットンをめぐる不都合な真実

濱田雅子の著書・翻訳書

- ★ 『アメリカ植民地時代の服飾』（せせらぎ出版、1996年）
- ★ P.F. コープランド著、濱田雅子訳 『アメリカ史に見る職業着ー植民地時代～独立革命期』（せせらぎ出版、1998年）
- ★ 『黒人奴隷の着装の研究ーアメリカ独立革命期ヴァージニアにおける奴隷の被服の社会的研究』（東京堂出版、2002年）
- ★ 共著 『世界の民族衣装の事典』（東京堂出版、2006年）第8章、第9章担当
- ★ 『アメリカ服飾社会史』（東京堂出版、2009）
- ★ 『パリ・モードからアメリカン・ルックへーアメリカ服飾社会史 近現代篇ー』（インプレス R&D、2019）
- ★ 『アメリカ服飾社会史の未来像ー衣服産業史の視点からー』（インプレス R&D、2020）
- ★ 『20世紀アメリカの女性デザイナーの知られざる真実ーアメリカ服飾社会史続編ー』（インプレス R&D、2021）